

「挑戦し続けるたくましさ」を育むために ～令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果から～



1 はじめに

高山市の子どもたちのよさや課題について、より広く市民の皆様にご存知いただくとともに、学校・家庭・地域で情報の共有を図ることにより、更なる「協働」した取組みを進めるため、「全国学力・学習状況調査」の結果を公表いたします。

各学校の得点（正答率）については、学校の序列化や過度の競争、個人の特定につながる恐れがありますので、公表はいたしません。子どもたちの健やかな成長を願い、市民の皆様にもご理解いただきますようお願いいたします。

2 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 調査の目的

- ・高山市教育委員会と市内全小中学校では、全国的な状況との関係において、市の教育施策の成果検証や、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために調査に加わっています。

※ただし、調査の結果は児童生徒の学力の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 調査の対象学年

- ・高山市内の全小学校の第6学年の児童と全中学校の第3学年の生徒

(3) 調査の内容

- ・今年度、小学校では国語・算数に関する調査、中学校では国語・数学・英語に関する調査、小中学校共に生活の諸側面や学習意欲等に関する質問紙調査を行いました。

(4) 調査日

- ・令和5年4月18日（火）

3 高山市における調査結果の概要

(1) 児童・生徒の学力の状況について【学力調査から】

全国平均正答率と比較した市の状況をまとめました。

※表記方法：市の状況を、全国平均正答率と比較して下記の5つの記号で表記しています。

「▲」：-5.0以下 「△」：-4.9~-1.1 「※」：-1.0~+1.0 「○」：+1.1~4.9 「◎」：+5.0以上

科目	対象学年	小学校6年生		中学校3年生	
		高山市	全国 (%)	高山市	全国 (%)
国語		※	67.2	○	69.8
算数・数学		※	62.5	※	51.0
英語				○	45.6

【学習所見について】

<国語>

- ・小学校では、「話すこと・聞くこと」について、力を付けています。一方、複数の情報（グラフも含む）から分かることをとらえたり、それを与えられた条件を満たした文章で表したりする力については更なる向上が求められます。
- ・中学校では、「我が国の言語文化に関する事項」や「話すこと・聞くこと」に関する力を付けています。一方、複数の情報（文章）を同時に読み比べ、それらを関連付けて考えたことを文章に表現する力については更なる向上が求められます。

<算数・数学>

- ・小学校の算数では、比例の定義をもとに伴って変わる2つの数量の関係が比例ではないことを説明したり、示された表から必要なデータを読み取ったりする力が付いています。一方、多角形の定義や求積公式など基礎的・基本的な知識及び技能の定着には課題がみられます。
- ・中学校の数学では、問題場面における考察の対象を明確に捉えて計算結果を正しく求めたり、文字を使った式を正しく計算したりする力が身についています。一方、空間図形に関する基礎的・基本的な知識の確実な定着には更なる向上が求められます。生きて働く知識としていくためにも、他者の考えを理解したり解釈したりするとき、他の数量でも成り立つかなど進んで考える姿勢を求め、価値づけていくことが必要になります。

<英語>

- ・中学校では、ある状況を描写した英文や、道案内の場面における英会話などから情報を正確に聞き取る力が身に付いてきています。一方、与えられたテーマについて事実や自分の考えなどを整理したり、それを与えられた条件を満たす英文として表現したりする力については更なる向上が求められます。

→上記の結果を踏まえ、学校の授業では、どの教科においても、複数の情報から読み取ったことをもとに自分の考えを構築する活動や、それを条件や目的に合わせて根拠を明確にしながから表現する活動を位置付けるようにしています。また、自分とは異なる見方・考え方を受け入れたり、解釈したりして自分の考えを再構築する活動を位置付けると共に、じっくり読み、書き、考える時間を確保して、より深く学べる授業づくりに引き続き挑戦していきます。

(2) 授業中の学習に対する意識について【質問紙調査から】

(記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率)
 「▲」: -5.0以下 「△」: -4.9~-1.1 「※」: -1.0~+1.0 「○」: +1.1~4.9 「◎」: +5.0以上

質問項目	小学校6年生 (%)		中学校3年生 (%)	
	高山市	全国	高山市	全国
授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいましたか。	○	78.8	◎	79.2
学習について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	○	77.4	◎	69.2
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	○	81.8	○	79.7
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	※	63.7	◎	62.1
国語の勉強は好きですか。	△	61.5	※	61.4
国語の授業の内容はよく分かりますか。	○	85.7	◎	80.0
算数・数学の勉強は好きですか。	※	61.4	○	56.7
算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。	◎	81.2	○	73.3
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	○	93.3	○	75.8
英語の勉強は好きですか。	△	69.3	▲	51.9
英語の授業の内容はよく分かりますか。			△	63.9
これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。	※	46.5	○	30.0
これまでに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか。(ほぼ毎日~週3回以上)	◎	62.4	◎	61.1

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善への取り組みについては、次のとおりです。

- 小・中ともに授業におけるI C T機器の活用が非常に多く、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、次の学習につなげるように学んだりすると共に、対話活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできていると感じる児童生徒が多い傾向にあります。
 - △ 小・中学校の国語、中学校英語で、「教科の勉強が好き」と答えた児童生徒が、全国平均より低い傾向にありますが、経年変化としては概ね上昇傾向がみられます。
- 児童生徒の「教科の勉強が好き」と「教科の内容がわかること」の相関を分析して、学校では今まで以上に児童生徒の主体的に学びに向かう姿勢を価値付け、評価していきます。また、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図ると共に「教科の内容が深くわかる喜び」が実感できるように授業改善に取り組みます。そのために一人一人の学びを促進させ、見届けるツールとして、I C T機器を有効活用していきます。

(3)「居場所づくり」「なりたい自分」「深い学びへの挑戦」に関わる質問紙の状況について
質問紙の結果を、高山市小・中学校教育の方針と重点に示された3つの柱に関わる、下記の項目の傾向をみてみました。

(記号の表記は学力と同様。数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答の比率)

「▲」: -5.0以下 「△」: -4.9~-1.1 「※」: -1.0~+1.0 「○」: +1.1~4.9 「◎」: +5.0以上

	項 目	小学校6年生 (%)		中学校3年生 (%)	
		市	全国	市	全国
居場所づくり	友達関係に満足していますか。	○	90.3	○	88.7
	先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。	○	89.8	◎	87.3
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	◎	68.5	◎	66.4
	あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。	○	77.2	◎	77.9
なりたい自分	自分にはよいところがあると思いますか。	○	83.5	◎	80.0
	将来の夢や目標を持っていますか。	※	81.5	○	66.3
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	○	95.9	○	94.6
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	○	76.8	◎	63.9
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	◎	57.8	◎	38.0
深い学びへの挑戦	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	△	76.5	○	77.6
	これまでの授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	※	74.4	◎	69.1
	新聞を週1回以上読んでいますか。	※	12.6	※	8.1
	読書は好きですか。	※	71.8	△	66.0
	学校での授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたり30分以上読書をしますか。	▲	37.3	△	28.4
	学校での授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたり2時間以上勉強をしますか。	▲	25.6	▲	33.7

<一人一人の子の居場所づくりに関わって>

- ・「先生は、自分のよいところを認めてくれる」と答えた児童生徒は、小・中学校ともに、全国平均より高い傾向にあり、身近な人からの他己評価により自己有用感が更に高まっていくことが期待されます。
- ・また、「身の回りに困りごとや不安を相談できる大人がいる」「学級生活をより良くするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と答えた児童生徒も全国平均より高く、頼れる存在がある安心感や、互いに認め合い、共により良く成長できる学級集団という居場所づくりができていることがわかります。

<なりたい自分に関わって>

- ・「自分にはよいところがあると思う」「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う」と答えた児童生徒が全国平均を上回ると共に、経年変化でも増加傾向にあり、自己肯定感や郷土愛、貢献感が高まってきている傾向にあるといえます。
- ・自分も、人の役に立てる人間になれるという可能性を信じ、将来の夢や目標に繋げていけるよう、今後も更に自己肯定感を高められるようにしていきます。

<深い学びへの挑戦に関わって>

- ・深い学びを生み出すために必要な要素について「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と答えた中学生は全国平均より高い傾向にあり、発達段階の違いはあれど、小・中共に深い学びを実感できる授業への挑戦が多く実践されていることがわかります。
- ・一方、「学校での授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたり2時間以上勉強をする」と答えた児童生徒が全国平均よりかなり低い傾向にあります。深い学びを保障するためには基礎的・基本的な知識及び技能の定着が欠かせません。ここ3年間の経年変化でも、1日あたりの家庭学習時間（塾等も含む）について、2時間以上の児童生徒が減少し、30分未満が増加している実態があります。帰宅後の時間の使い方についても、振り返る機会を設け、有意義な時間にできるようにしていきます。
- ・また、国語、算数・数学、英語のいずれにおいても「毎日、新聞を読んでいる」「毎日、読書している」と回答した児童生徒の正答率が「ほとんど、または全く読んでいない子」の正答率より10%以上高いという結果でした。長文を読むこと自体に慣れてじっくり読む力を培うこと、自分の関心のある知識に偏ることなく多様な見方・考え方に触れる経験を増やすことで、より深い学びを生み出せる児童生徒の育成に取り組んでいきます。

4 全国学力・学習状況調査結果の活用について

ここまでみてきた結果から、高山市の児童生徒は、保護者や地域の方々の温かい眼差しと声掛け、各学校の取組みによって、「安心できる居場所」で「なりたい自分」の実現に向けて「深い学びを実感」しながら、日々たくましく挑戦し続けていることがわかります。

引き続き、児童生徒が、自分の夢や将来の目標に向けて、学習・生活を主体的に充実させていくように育んでいくことを大切にしたいです。

今後も、子どもたちのたくましさや育む関わりを大切にして、引き続き課題解決に向け、学校・家庭・地域が協働して取組みを進めていただきますようお願いいたします。

【学校では】

- 今後も、児童生徒一人一人の良さを認め、お互いを認め合える居場所としての学級・学校づくりに努めてまいります。また、一人一人の心と向き合い、困りごとや不安なことを相談できる場所としての「教育相談室」と共に、学びを保障するための「校内教育支援センター」を各校に位置付け、どの子どもにも寄り添った支援を行っていきます。
- 学習では、ICT機器やNEW! Web ラーニングなどのe-ラーニング教材を積極的に活用して、一人一人の進捗状況に目を向け、個別にきめ細かな支援を行います。学力向上のための指導改善プランをもとに、授業改善や教師の資質向上を兼ねた研修会を実施し、児童生徒の「学びに向かう力」を高めるよう、高山市や自校の課題解決に向けた取組みを継続します。

【家庭では】

- 家庭でもお子さんとの対話の時間を増やし、学校の様子等を話題にしながら、お子さんが挑戦したことを認め励まし、意欲や主体性、自己有用感を育てていただくようお願いいたします。特に、「欠点直し」ではなく「良さを伸ばす」声かけをしていただけるとありがたいです。
- お子さんの「なりたい自分像」や「その実現に向けた取組」について家族で話し合うことを通して、食育（朝食の摂取や栄養バランス等）や眠育（早寝早起き、睡眠時間）の大切さに気づかせていただいたり、スマートフォンなどの機器の扱い（ゲームやSNS・動画の視聴等）に関して生活習慣を見直しながら、家庭での学習時間や読書の時間の大切さに気づかせていただけるとありがたいです。

【地域では】

- 自分の住んでいる地域の行事に参加したり、地域のために活動できる子どもたちです。地域のため、地元の人のためと活躍してみえる姿に触れる機会を増やし、「あんなふうになりたい」というビジョンをもたせ、将来の夢や目標を具体的に描ききっかけとなる機会を与えていただけるとありがたいです。
- 地域の方との体験活動やふれ合いなどのおかげで、高山市小・中学生共に「地域や社会をよくするために何かしたい」という意欲が向上しています。引き続き、地域が抱える課題や、地域で困っていることについて、子どもたちと一緒に考えていただく場を大切にさせていただきますようお願いいたします。

5 公表方法

- (1) 高山市ホームページに掲載し、保護者を始め一般市民が閲覧できるようにします。
- (2) 各学校では、これまでと同様に独自の分析を行い、保護者や地域にお伝えします。

